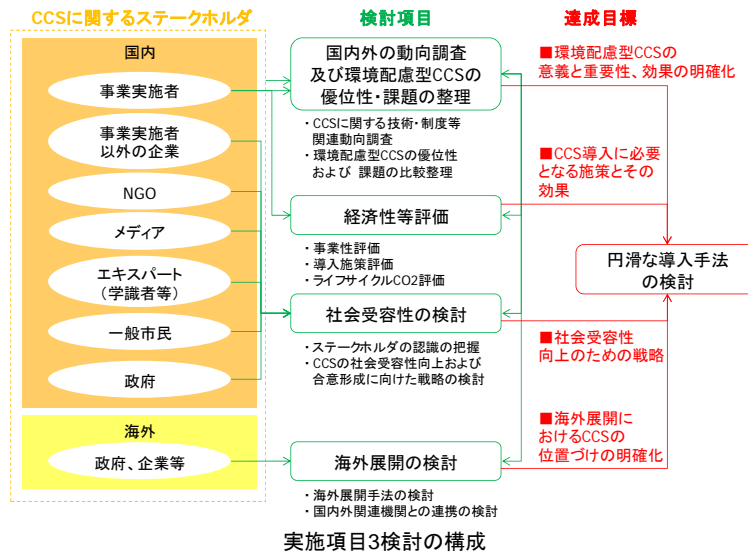


実施項目3. CCSの円滑な導入手法の検討

背景・目的

- CCSの円滑な導入にあたっては、一般市民を含む、CCSに関わるすべてのステークホルダの合意形成が重要である。
- CCSに対する合意形成に向けた課題を明らかにするため、環境配慮型CCSの優位性・課題を整理したうえで、合意形成に影響を与える政策、経済性、および社会受容性に関する調査・分析を実施するとともに、CCSの海外への展開に向けた検討を行う。



実施内容

環境配慮型CCSの優位性・課題の整理

CCSに関する技術・制度等関連動向調査

環境配慮型CCSの定義及び優位性・課題の整理

環境配慮型CCSの定義を明確化し、環境配慮型CCSに資する技術や関連制度それぞれについて優位性や課題を検討する。

環境配慮型CCSの要素

環境配慮型CCSの要素(案)	具体例	
自然環境への配慮	CO2排出	CCSの各プロセスにおけるCO2排出量
	環境負荷	各プロセスで排出される化学物質、アミン吸収液等の環境リスク、等
	生物多様性	操業による生物多様性の保全に対する影響、等
社会環境への配慮	CO2漏出リスク	各プロセスにおけるCO2漏出リスク、とり得る対策、等
	エネルギーコスト	エネルギーコスト(特に電力価格)への影響、等
	経済効果等	国内および事業実施地域への経済波及効果・雇用創出効果、その他副次的効果
	漁業等への配慮	漁業や船舶走行等の既往経済活動への配慮、等
市民の認知	CCSの必要性、潜在的风险に対する懸念など市民の認知への配慮、等	

経済性等評価

経済性評価

シャトルシップ輸送・貯留システムを中心としたCCS事業全体の経済性や、事業主体へのインセンティブについて評価する。

ライフサイクルアセスメント

シャトルシップ輸送・貯留システムを利用するCCSの温室効果ガス排出量を、LCAの観点から評価する。

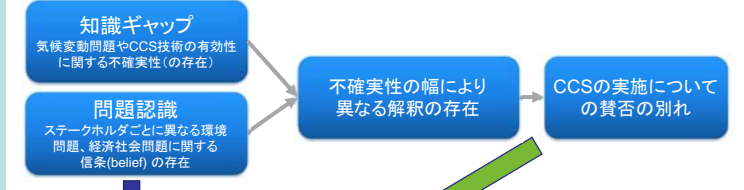
社会受容性の検討

市民参画と知識マネジメントを二本の柱とした「社会的合意形成に向けた戦略」の立案

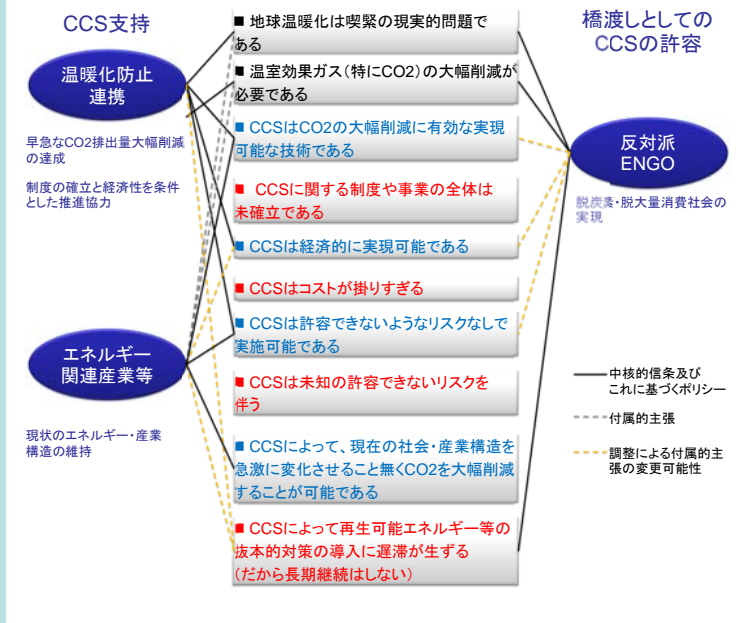
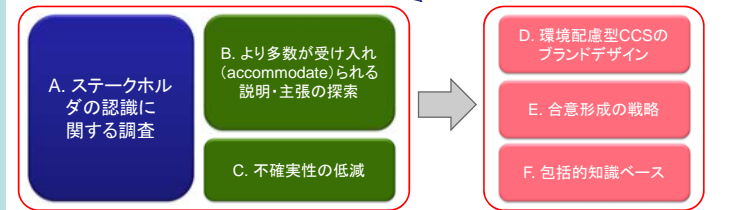
以下についての検討を行う。

- 社会調査によるステークホルダや一般市民の認識の把握
- 知識ギャップ(気候変動やCCSの有効性に関する不確実性)の把握
- ソフトウェア/システム的设计・開発

意見形成の流れ(従来の研究より)



本事業における課題解決のアプローチ



環境配慮型CCSの目指す社会的連携の例

